

新・鬼師の世界—周縁の再中心化： 「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボレーション

—山本鬼瓦工業（株）—

The New・World of Ogre-tile Makers:
Re-centering the Periphery: The Collaboration of “Kimetsu-no-yaiba” and “Onishi”
—Yamamoto-onigawara Industry Inc.—

高原 隆

TAKAHARA Takashi

愛知大学国際コミュニケーション学部

Faculty of International Communication, Aichi University

E-mail: ttakashi@vega.aichi-u.ac.jp

Abstract:

The Ogre-tile makers called “Onishi” did do the collaboration with the animation industry called “Kimetsu-no-yaiba” (The Swords To Kill Ogres) between October 30, 2020 and January 29, 2021 in Takahama, Japan. The ogre-tile makers had never collaborated with other kinds of industries. Moreover, the Kimetsu-no-yaiba was and is one of the most popular cartoons and animations in Japan. On the other hand, people in Japan have not been aware of the name of the Onishi as an ogre-tile maker until even today. The exactly opposite both parties did collaborate with each other for three months. The event itself was unprecedented to both of them. The result was also amazing because they had a large response from the world, especially through many kinds of media. I call such a phenomenon “Re-centering the Periphery.” The onishi being behind the scenes leaped into the middle of the stage in the public.

今（2020–2021年）、鬼師の世界が面白い。日陰の存在だった鬼師が^{ひなた}日向へと躍り出た。思いも寄らない事が起きたのだ。『鬼滅の刃』（吾峠2016、2017、2018）は子供から若者、大人、年寄りといった幅広い年齢層から成る人々に圧倒的な支持を受けている超人気アニメである。現代日本において国民的な注目を浴びている昇る朝日の様な存在である。一方

の「鬼師」はその始まりから此の方、日陰の世界で生きて来た人々である。一般の人々も、一般社会も、実在する鬼師どころか「鬼師」という名前さえも知らないし、知られていないのが実態である。(高原2017) しかも、鬼師が新しく近年になって生まれたから知られていないのではない。それとは反対に長い歴史と伝統を持つ特殊な人々なのである。鬼師とは鬼瓦を手作りで作る職人を言う。もちろん鬼師がいつの時代まで遡れるのかは定かではない。昔の鬼師たちはこの世にはいない。しかし、彼らが残した鬼瓦は存在する。その中で最も古く「オニ」と刻された瓦(鬼瓦)には年号が付されており、貞治二年(1363)とある。(小林2016) さらに鬼瓦は必ずしも鬼の相を持っておらず、様々な文様が表面おもてめんに施されていることを勘案すると、「飾り瓦」とも呼べる。また実際に現場ではその様にも呼ばれている。(高原2017) すると一気に瓦が日本へ伝えられた588年にまでも遡ることになる。理由は屋根を葺く瓦はいわゆる瓦(本瓦又は和瓦)と棟の端を飾る瓦(飾り瓦又は鬼瓦)がセットだからである。そうした長い長い年月をかけて、日本の伝統文化の一翼を担って来た瓦文化であるが、それを作る主体の瓦師や鬼師が世に出ることはなかった。

それに比べると「鬼滅の刃」は現在、人気絶頂で、日本の大多数の人々が知っている存在である。ただ「鬼滅の刃」はつい最近に生まれ、一気に新星のように光り輝いている存在なのである。実際、『鬼滅の刃』は週刊少年ジャンプに2016年第11号から2020年第24号まで連載されている。「鬼師」と比べると存在の在り方が真逆であることがわかる。この「鬼師」と「鬼滅の刃」の在り方の違いが周縁と中心の意味なのである。

書き出しに戻ろう。思いも寄らない事とはその真逆の存在である「鬼師」と「鬼滅の刃」が何とコラボレーションを行なったのである。2020年10月30日から2021年1月29日にかけてほぼ三か月間にわたって日本において特に鬼師が集中する愛知県高浜市で、前代未聞のアニメ産業と瓦産業によるコラボが実現したのだ。事の始まりについては既に愛知大学総合郷土研究所紀要第67輯に詳しく書いている。要は「鬼滅の刃」と「鬼師」の陽と陰を結び付けた存在がいたのである。鬼師が棲む町、高浜市が市制50周年(2020年)を祝う行事の一環として陰の仕掛人となって、この一大イベントをサポートしたのである。黒子としてのプロデューサーがいたことになる。彼らを高浜市役所に棲む「オニ」と称したのは私である。(高原2022)

ここでは「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボレーションの実動部隊となった鬼師を中心に話を進めて行く。まずはこのコラボの「鬼師」側の代表である三州瓦工業協同組合理事長を務める山本英輔が運営する山本鬼瓦工業(株)のコラボへの取り組みについて見てみたい。

山本鬼瓦工業（株）

山本英輔は山本鬼瓦工業（株）の四代目社長である。通称は山本鬼瓦と呼ばれている。今回の「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボレーションの「鬼師」側の代表でもある。理由は英輔が三州瓦工業協同組合の現理事長として活躍しているからである。このコラボの全体像を把握している人物である。「鬼滅の刃」側の代表は（株）フェザン・レーヴであった。この会社が「鬼滅の刃」のデザインに関連する著作権を取得しているのである。そして「鬼師」と「鬼滅の刃」の間の直接の交渉を行ったのが高浜市役所企画部総合政策グループだった。この三者の間で打ち合わせが行われ、「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボレーションが進行したのである。

それ故、真っ先に訪れた先は山本鬼瓦であり、実際に会って話をした人物が山本英輔だった。山本鬼瓦は偶然にも高浜市役所から百メートルも離れていないところにその工場があり、そこで鬼師が5、6名働いている。現在、高浜において、そしておそらく日本において最大規模の鬼板屋と言えよう。英輔本人は鬼師ではないが、山本鬼瓦を運営している社長である。インタビューをした日は2021年8月4日のことで、場所は山本鬼瓦の広い構内の一角にある応接室であった。鬼瓦に関連する文献資料の書架が三本立っており、様々な山本鬼瓦の製品が展示されている。目を引いたのは「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボで、山本鬼瓦が制作した二枚のモニュメントであった。ほぼ30センチメートル（1尺）平方のいぶし銀の平板瓦に「鬼滅の刃」の主要キャラクターの二人が彫られ飾ってあった。鬼殺隊の一人、^{はしびらい のすけ}嘴平伊之助は見てすぐに分かった。伊之助は主役を演じる竈門炭治郎と同期で、鬼殺隊になるための最終試験に炭治郎と共に受かった人物である。猪の毛皮を被っているのが、覚えやすい。もう一人のキャラクターは柱と呼ばれる鬼殺隊の中でも最高位、最強とされる九名の剣士の一人、^{いぐる おぼない}伊黒小芭内であった。蛇柱と呼ばれ、蛇が付いている。ただその時はまだ伊黒の活躍をするアニメを見ておらず、そのモニュメントを目の前にしても今一つピンと来なかった。そして山本鬼瓦の構内、すなわち応接室の外には、沢山の鬼瓦が野晒しにされて、^{ところせま}所狭しに点在している。鬼板屋の前でよく見かける光景である。高浜市を特徴づける、四季を通じて楽しませる町の代表的な風物と言えよう。

英輔は「鬼師」代表という立場上、山本鬼瓦としてというよりも「鬼師」側から見た「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボについてその多くを語ってくれた。まずは英輔にコラボの発端・動機について尋ねてみた。（図1、2）

切っ掛けとしては、あの一、ま、人気アニメの鬼滅の刃の「鬼^き」っていう字が「鬼^{おに}」っていう字と、私どもの鬼瓦の「鬼^{おに}」っていう字、また鬼師の「鬼」という字と鬼滅の「鬼^き」と鬼瓦の「鬼^{おに}」、鬼師の「鬼^{おに}」というのが同じ「鬼」繋がり、あ



図1 山本英輔 山本鬼瓦工業(株)社長 令和3年8月4日



図2 「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボ・モニュメント
嘴平伊之助(左)、煉獄杏寿郎(中央)、伊黒小芭内(右)：山本鬼瓦応接室にて

の一、ま、何かコラボ出来たら面白いんじゃないかなあという事で、二年ぐらい前（2019年）から、あの一、ちょっといろいろ考えていまして、ほで、あの一、ま、私どもの三州瓦工業協同組合もそうですし、あと、高浜市の行政さんのお力も借りまして、何とか「鬼師というのの知名度を上げたい」と、「鬼瓦というのをわかりやすく、若い世代にも伝えて知ってもらいたい」。その、また「高浜市が鬼師の町なんだぞ」と、「全国で鬼師さんがたくさんいる鬼師さんの町だ」という事を全国に広めたいという事で、あの一、コラボする切っ掛けになりました。

やはり、とんでもない大きいことをやりますので、私たちの組合だけでは出来ませんし、もちろん高浜市としての市の力も要りますし、協力も要りますし、また高浜市の観光、かわら美術館にも力を借りて、高浜市全体で人気アニメ「鬼滅の刃」とコラボして高浜を盛り上げましょうよという事で、三か月間限定でコラボするのが切っ掛けの始まりですね。

大体のコラボの始まりの大枠を英輔は語っている。英輔率いる瓦組合は「鬼師」、「鬼瓦」の知名度を三州を超えて、日本社会へと広げたい、また高浜市も「鬼師のまち」としてやはり全国へ知名度を高めたいと考えていた。そしてここでは語られていないが、両者を繋ぐものとして、2017年11月30日に取得した国からの伝統的工芸品産業として鬼瓦産業が「三州鬼瓦工芸品」の名で全国で230番目に認定されたことが挙げられる。（高原2022）国からの貴重な伝統的工芸品に指定されたにもかかわらず、その事の一般社会への周知、PRが遅々として進まず、瓦組合としても、そして高浜市としても、その対応策に頭を抱えていたのであった。両者はこの件について協議を持ち、アニメとコラボしたいという案が鬼師側から提案された。しかし、アニメ「鬼滅の刃」がその最初から指名されて交渉に入ったわけではなかった。この間の経緯は高浜市が中心となって行ったことで、いろいろなアニメ制作会社と市が折衝する中で、「鬼滅の刃」が偶然にも浮かび上がって行ったことがわかっている。（高原2022）高浜市側から「鬼滅の刃」とのコラボの打診が「鬼師」の代表である山本英輔のもとへ入ったことになる。それがおよそ2年前の2019年の出来事であった。英輔は高浜市からのコラボ案を受けて動き始めたのだ。

最初は「話題にはなっとるアニメだなあ」ぐらいにしか、最初は思わなくて。で一、だけど、小学生の子供だとかは、その一、「何とか柱」だとか、「鬼殺隊」だとか、そういう話をしているのを聞いて、「すごいなあ」というのが、ま、最初の印象はそこで……。

英輔は自分自身が「鬼滅の刃」に元々はまっていたわけではなく、「鬼滅の刃」とのコラボの話を高浜市から提示されて、初めて「鬼滅の刃」に意識を向けたことを語っている。それも英輔本人の身の回りに起きていた事実英輔が気付いたのである。

うちの子供も……、うちの子供、今、中一と小六ですけど、うちは女二人なんだけど、もう学校行くとそういう話を……。（「鬼滅の刃」の）下敷きとか、ボールペンとか、みんな持ってるとか。ま、その世代ですね。うーん。それは大きいですね。

英輔は自分の子供の姿を見て、「鬼滅の刃」を見定めたのである。そして実際にアニメ「鬼滅の刃」を見たのだ。

アニメか何かを見て、見ることになって、「鬼滅の刃」という字を見た時に、当たり前なんだけど、「鬼」って書いてあるじゃんと思って。（笑い）「あれ、鬼って書いてあるなあー」と思って。「鬼」って書いてあって、前々から僕は「ゲゲゲの鬼太郎」だとか、「鬼」って書いてあると、何か、コラボしたいなと思って。鬼太郎の「鬼」も「^{おに}鬼太郎」と書いて「^き鬼太郎」だし、「鬼」って書いてあるマンガだとか、アニメだと、何か、面白いことをやりたいなと思ってたもんですから……。

この話を聞いて、英輔に「鬼滅の刃」を受け入れた理由を尋ねてみたのである。やはり、鬼板屋としての視点が色濃く出た回答が返ってきた。

そうですね。アニメ自体が大正時代の話で、あの一、アニメなんかを読んでても、例えば屋根で戦うシーンですとか、あの一、瓦のシーンが出て来るのが多いので、あの一、そこが一番の魅力でしたね。

やっぱり、「和」という日本の伝統だったりだとか、あの一、炭治郎のこういう羽織の模様とかね、ああゆうのも、日本の伝統ですので、やはり私ども同じ伝統産業ですので、そこで何か一緒にやれたら面白いなという事で……。

英輔は次に「鬼滅の刃」で気になった「鬼」についての「鬼」談義に入った。それは高浜市側の中心人物、企画部総合政策グループ課長、榊原雅彦が自身の部下でこのコラボを雅彦と共に牽引していった高須春奈と語っていた「鬼」談義を彷彿させるのであった。（高原2022）

一つ引っかかるのは、「鬼」を助ける、殺しちゃうという、(笑い) 鬼が悪者になっているという、(笑い) それが一つ引っかかるところではあるんだけど。(笑い)

うちらは、鬼瓦は守り神だったり、厄除けだったりいう部分で作ってますけど、アニメの中では悪者で殺されるという、悪の……。あれ、悪者になってますけど、そこだけは引かなかった部分があったんですけど。

誰かが、最初、「鬼でも人間だった」と。……。鬼になる前。初めから悪い鬼じゃなくて、人間だった人が悪い道に走っちゃって、鬼になったと。で、そこで、「初めから悪い人じゃない」という事が、誰か、ポツツと言って、それで、ああ、悪者だけの鬼じゃない、悪だけの鬼じゃないってことで、……。ですかね。

英輔の「鬼」談義を聞いて、思わず私も「鬼」談義に引き込まれたのである。

ドラキュラみたいな感じがありますね。

すると英輔は、ハッとしたように応じたのだ。

アッ、そうですねえー。

その返事を受けて、私は考えを発展させていった。

もとの鬼がいて、ドンドン悪に染まって行く。で、本人の鬼さえ、心の中で葛藤する。鬼といってもその人自身ではなくて、遷^{うつ}っている。そこがコロナとちょっと似ている。そのコロナ的体質というのが鬼滅の刃の特徴だと思います。

ここで私が話しているもとの鬼が、「鬼滅の刃」に登場する人を鬼に変える力を持つ鬼舞辻無惨^{ぶつじむざん}である。この鬼舞辻無惨がルーマニアのトランシルバニア地方に伝わる有名な伝説、ドラキュラ伯爵の物語に似ていると思ったのである。昼間は棺桶の中で眠り、日没から、つまり夜起き上がり、人を襲う。伯爵は襲った人の血を吸う吸血鬼であった。しかも襲われた人は一旦は瀕死の状態に陥るが、伯爵の血が咬み傷から感染し、吸血鬼として蘇るのである。「鬼滅の刃」の「鬼」に酷似しているのは否定のしようがない。現代の日本版ドラキュラ伝説が「鬼滅の刃」であると言っても言い過ぎではない。

(株) フェザン・レーヴが「鬼滅の刃」のデザインの著作権元になっていたので、「鬼滅の刃」のコラボが「鬼師」側で合意されると、高浜市が両者の直接的な交渉、手続きを進めて行った。英輔の話から「鬼師」側の動きが見えてくる。「鬼師」は今回のコラボの直接の実行部隊である。

ほで、ま、内容としましては、鬼師が作るいぶし銀の人気アニメのキャラクターのペーパーウェイトだったり、文鎮ですとか。あと何だっけな、あとは、傘立てですとか、主人公たちの刀の鍔を^{かたど}模ったマグネットですとか……。そういうのをアニメの世界観を壊さないように、なおかつ忠実に作ることで……。

うちら鬼師たちも初めての試みでしたし、すごい、ま、期間は決まっていますし、準備期限も短かったですし、えー、すごい、正直言えばすごい大変でしたね。

10社の組合さんで、やりたいという人が10社いましたので、その中で取りまとめて、どういう作るだとか、いくらで販売するだとか、そういう取りまとめも全てやって、三か月間コラボ、10月30日から1月29日までで、この三か月間のコラボやったんです。

参加した10社は、山本鬼瓦工業(株)、(株)丸市、(有)岩月鬼瓦、(株)石英、鬼英、鬼百、鬼福製鬼瓦所、(有)鬼亮、(株)神仲、萩原製陶所、(株)伊達屋であり、実際は11社になっている。これは途中、鬼英が後から加わったためである。全ての鬼板屋がコラボに参加したわけではない。参加は義務ではなく、各社の自由意思に委ねられていた。

また、実際にコラボが始まると、想像以上の反響を呼び、各社ともコラボ期間中は相当に忙しかったのである。英輔は次のように語っている。

休みが正月の一、二しかなくて、後はもう、そう、期間中は例えばメディアの取材対応ですとか、新聞、雑誌とかのインタビューを受けたりだとか、えーっと、作った商品をかかわら美術館で販売したんですけど、もう、あの一、朝、オープン時には、初日には二百人ぐらいの行列が入り口からずーっと出来て、二百人ぐらい並んで、かわら美術館も過去最高の売り上げだとすごい喜んで、(笑い)喜んでました。

美術館オープン以来こんなに人が来たことも無いし、ショップの売り上げも最高の売上出したりしましたし、あの一、そうだね、……とっていましたね。

英輔は「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボで、鬼師が行なったことをまとめてくれた。

コロナ禍だったんですけども、やっぱり全国からお客さんが来て、ショップで鬼師が作ったものを買ってもらおうと。それが一つです。

もう一つは、あの鬼師の技を生かして、三十センチ角の人気アニメ「鬼滅の刃」のキャラクターの干支瓦風、私ども毎年三州瓦の干支瓦を作りますので、干支瓦風の、模したキャラクターの制作を（後ろを指差して）こういうのを作って、それを市役所に飾りました。（図3）

もう一つは、ワークショップって言って、実際に鬼瓦の工場に来ていただいて、それを一般の人に募集して、えーっと、この位の、15センチ角の文鎮ウェイトを粘土を使って作ってもらおうという体験をやらしてもらいました。

特に三つ目のワークショップは超人気のイベントになり、何と三か月間で一万二千人の応募があったのである。英輔によると、「組合のパソコンがパンクしちゃって、ぶっ壊れましたね。（笑い）それ位の人気がありました……」。残念ながらコロナ禍であり、三密を



図3 14枚のモニュメント
（九柱＋炭治郎、禰豆子、伊之助、善逸＋「鬼滅の刃」於「鬼師のまち」）高浜市役所玄関

避けるために、応募した人たちに対して、抽選が行われた。実際にワークショップに参加できたのは408名だった。かわら美術館長の若松^{ふみひと}文人は8月5日にかわら美術館でインタビューをした際に、この件に言及して、当選券を「プラチナチケット」と呼んでいた。事実、当選確率3.4%の狭き門だったのである。英輔のコロナ対策に関する感想も聞くことが出来た。

正直、コロナじゃなかったら、もう、大人数呼んで、大きくやりたかったんですけど、もう、やっぱり制限されましたので。やっぱりなかなか。その辺がちょっと、PRしたいし、沢山来てほしいんだけど、ちょっとやれないというのを……。

……がありましたので、そこはなかなかやってて、ちょっと歯痒い部分もありましたけども、そういうのを、ま、高浜市の鬼師さんと一緒に一つの「鬼滅の刃」っていうアニメのコラボレーションで、コラボ出来たっていうのは、ま、大きかったですね。

英輔のみならず、組合員たちがコロナ対応に様々に苦慮したことも、英輔の言葉が物語っている。ただインタビューが思いのほか波に乗ったことと、英輔の人柄もあってか、受け答えにおいてたびたび笑いが巻き起こるようになっていた。

(笑い) やっぱり、コロナ、偶然というか、コロナの感染が爆発しちゃって、日本をはじめ、世界が混乱。ねー、大変な時期、ましてや、そんなん来るとは思ってないし、この時にやったっていうのも読みだし、やれたっていうのも、やっぱりみんなの協力があってやれたことだし……。

やっぱり、一つのイベントですもんで、やはりそこは行政はじめ、ま、うちら組合も葛藤はありましたね。他は自粛してるんだけど、どこまでやっていいのとか。いや、この世の中だからこそ、鬼瓦は魔除け、厄除けだったり、疫病退散の意味があるもんで、「やらないかん」って言う人もいたし、「いや、自粛しないかんじゃないか」って言う……。

本当に、もう、普段なら普通にやれることを、……が、スムーズにやれないっていう。(笑い) ここでも、会議だとか、いろんな会議やっても、……思いはありましたね。

また「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボが実際にコロナ禍の最悪の状況にもかかわらず行

なわれ、予想をはるかに超える成果をもたらしたのは事実である。様々な偶発的な出来事が重なり合って、このコラボが実行出来たわけだが、英輔は一つ興味深いことを述べている。それが、この「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボレーションにまるで合わせたように、鬼師の世界において、世代交代がほぼ丁度完了していたのである。それを象徴的に表している事件がもともと三州にあった、鬼瓦組合（三州鬼瓦製造組合）、白地の鬼瓦組合（三州鬼瓦白地製造組合）、そして瓦組合（三州瓦工業協同組合）の三つの組合が2017年に一つに統合され、三州瓦工業協同組合に改組されたことが挙げられる。そして新しい組合の理事長に当時42歳の山本英輔が就任したのである。（高原2022）まさしく、「新・鬼師の世界」が公式に始動したと言えよう。英輔は業界全般にわたる世代交代の動きを意識しており、その動きと「鬼滅の刃」という異業種とのコラボを結び付けるのだった。

ま、でも結果としては、一番「やれた」っていうの、やって良かったなと思っていますけどね。「やれた」っていうのはありますし、ま、すごい、多分一生、自分が理事長の時にやれたっていうのも財産になりますし、すごい光栄な事ですし……。

ま、言い方は悪いけど、これがすごい年寄りの理事長さんだったらね、（笑い）やれたかなあ、（大笑い）……という……。

当然、うちら、組合員さんも、ちょうど親との世代交代で、組合にも次の世代の人が出て来てくれたという。いいタイミングでもありましたので、そこはすごい、何か、合致したっていうのがありますね。そこは大きかったですね。

次世代を担う若い鬼師たちが組合の主要構成員になっており、業界の存続の危機感を背景に、組合そのものが統合改編され、新しい、若い理事長のもとで、業界の存亡をかけて異業種とのコラボに臨んだのである。

三か月間の「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボレーションが2021年1月29日に終わった。山本英輔とのインタビューは、それからほぼ半年後の8月4日のことであった。英輔はこのコラボを振り返り、次のように総括している。

ま、やはり、そこで、今まで、こう鬼瓦見たこと無いだとか、いぶし銀を知らなければ、高浜市っていう町を知らないっていう人が多かったもんですから。

コラボ切っ掛けで全国各地に高浜市の名前だったり、鬼瓦の仕事の対応だったり、その鬼師さんっていう名前が全国に広がったという事が一番大きいことですね。

やっぱり反響がものすごい。自分が思った以上の、反響が大きすぎて、今だにやっぱり反響がありますね。うーん。ほん中で、「若い子が鬼師に、同じ鬼師になりたい」だとか。「自分の家に鬼瓦を飾りたい」という二十代、三十代の子が多かったり、おったり。あと一、ほんとに、「遠方から、東京とか、大阪とか、全国から問い合わせがあったり」だとか。

そう、何ていうの、爆発的ヒットというか……。これ、爆発的ヒットだよな。(笑い)今まで、やっぱり、業界がやって来なかった、全然、ちょっと新しい発想だし、アイデアでやれたというのは大きかったですね。

やっぱり、このコラボは若い職人さん、二代目、三代目、若い跡取りの後継者だったり、職人さんがやっていますので、その中でやれたというのが一つの財産でもありますし、今後に向けて、こうプラスになることをやれたかなと思ってますので……。

やはり最初は未知の企画で、しかも異業種アニメ産業とのコラボレーションだったので、特に旧世代の親方からの反対も事実存在していた。それ故、ある意味、旧世代と新世代を繋ぐ強烈な連結装置のような役割をコラボが果たし、業界内に不思議な強い連帯感の様な繋がりが生じたのである。英輔はこの連帯感を強く認識しているのだった。

やってる最中は親方の職人さんなんかは、「何の遊びをやっとるんだ」という職人さんいましたけど、こんだけ話題になって、ヒットして……。そしたら、もう、逆に反対しとった職人さんも手伝ってくれるようになって、アドバイスくれたりだとか。ま、……してくれますし、何て言ったらいいのかな。ま、業界が一つになったっていうか……。

この連帯感は鬼師や鬼板屋の間だけのことではなかった。英輔はもっと広い意味での連帯感について言及するのであった。

あの一、ほんとに、ま、三州瓦だけじゃなくて、瓦に携わるメーカーさんだとか、屋根屋さんだとか、そういう人たちも浸透してって、あの一、その期間、コラボ期間だけはやっぱり、その「鬼滅の刃」とコラボしたっていうのは、もう話題になって、なんか、何て言うのかな、「まとまった」というか、まとまりが出来たっていうか、まとまりがありましたね。一つの和（輪）じゃないですけど……。

何か大きかったですね。やっぱり営業で、全国行った（瓦）メーカーさんなんかは、行く先々で、このコラボの話題が出てきたりとか、「三州瓦、がんばってるね」だとか、あの、「面白い事やってるね」だとか。……で話題性は凄かったです。

「鬼滅の刃」は「鬼師」だけではなく、他の多くの会社とも同じ時期にコラボレーションをしていた。実際に、車で旅をしている時にいろいろな道の駅に立ち寄ると、ほぼどの店内でも「鬼滅の刃」とのコラボ商品を必ず見かけたものである。どれほどの反響だったのか、正確な数字では出ないかもしれないが、英輔は「鬼滅の刃」の契約会社、(株)フェザン・レーヴからの評価のフィードバックは聞いていた。

会社からねえ、はっきりとは言ってないですけど、この期間中にコラボしてた中で、一応2番目に話題性だとか、ま、いろんな面（笑い）も含めて、「2番目の話題性になった」とは言ってました。1番目はねえ、あの一、大手、たまたま同じ時期にコラボしてた大手メーカーのコーヒーメーカーさん（DyDo DRINCO, INC.）が、どっかのコーヒーメーカーさんのコラボしとったのが話題になって、今まですごい数のコラボやってますけども、その、「うちら（鬼師）は2番目」って言ってましたね。

そして評価が2番目と言われただけではなかった。何と、(株)フェザン・レーヴは第二、第三の「鬼滅の刃」とのコラボを彼らの側から提案して来たのである。数^{あまた}多いコラボ会社にその都度、契約会社の方から次回のコラボの誘いが来ることはそれほど多くはないのではないかと考えられる。「鬼師」とのコラボの反響の大きさをよく物語っている話である。英輔のこの件に関する話を紹介しよう。

それで、やっぱり、その、そこの契約してる会社さんも反響があったのか、「次の第二弾、第三弾、どうですか」って僕に。（大笑い）終わった時点で、すぐに。（笑い）向こうから提案が来て……。有難いですね。

英輔はフェザン・レーヴの評価への自己分析もしてくれた。その核心は鬼師が行なったコラボの特異性にあった。

やっぱり、人気アニメの、人気の凄さもありましたし、その時は、他の企業さんとかもコラボしてましたけど、だけど、実際に職人が作って、その職人が作ったものを販売したりだとか、ワークショップしたりだとか、見てもらうという事はどこの企業もやってなかったの、うちら、唯一、私どもやれた事でしたし、他のテイストとは違

う感じでしたので。

これはやれる。……、ここまで凄い爆発するとは思わなかったけど、ある程度手応えはありましたね。

英輔はもっぱら「鬼師」代表として「鬼滅の刃」とのコラボについて語ってくれている。実際に、事実上、理事長という立場上、またコラボ自体が想像以上、つまり想定外の反響を呼んだことにより、山本鬼瓦の仕事はほとんど他に任せて、本人は「鬼師」代表としての公的な対応に追われたのである。

その限られた中での山本鬼瓦での「鬼滅の刃」とのコラボの期間中の出来事をここに紹介することにしたい。やはり英輔自身が印象に残っているのはメディアからの取材であった。

「バイキング」(フジテレビ生放送・情報トーク番組の『バイキング MORE』)、えっと、あそこの坂上^{しのぶ} 忍が出るとるバイキングですとか、「バンキシャ」(日本テレビ生放送・情報番組『真相報道バンキシャ!』)ですとか。そうですね、……今まで全国放送でうちら鬼師が出たってというのは数回しかなかったんですから、全国放送で、こう、鬼師の活動が広がったというのが大きかったですね。

取材の中では、ちょっとミーハーだけど、芸能人の人がうち(山本鬼瓦)に来て、一緒に鬼滅の刃の粘土のワークショップをやったのが、あの、ま、楽しかったですね。(笑い)

あまこ
尼神インターの女性の二人(吉本興業女性お笑いコンビ:誠子&渚)が来て、なかなかこんな仕事やってると、芸能人なんか会えんもんで、まー、一緒に作ったというのが、あの一、楽しかったですね。何か、面白く、(笑い) 上手く盛り上げてくれたというか、それは大きかったですね。

現場においては、山本鬼瓦をコラボの期間中、実質支えて取り仕切って行ったのは、英輔の妻である山本章代^{あきよ}であった。

うちの嫁さんが本当に、(窯から) 焼けて出て来たのを箱に入れて、一個一個梱包したりだとか、あの一、カード入れたりだとか、そういう事してましたので。本当に、日曜日も休みなしで、ずーっとやってましたので、すごいな、そこは。

うちの会社自体もすごい活気がありましたね。うーん。それは大きかったな。僕はどっちかというと理事長としての取材対応だったりだとか、市役所とのやり取りばかりしてましたので、だで、どっちかという、そういう、えーと、うちの従業員に対する指示とかは嫁さんに任せとったんですから。そこで、すごい、あの一、やってくれたんで、すごい助かってますよね。だで、いつ社長交代しても。(笑い) 嫁さんに譲ろかなあーと。(大笑い) あの人の方がいいんじゃないかなあと思う。

そして山本鬼瓦で実際にコラボに対応したモニュメントや商品制作していったのは山本鬼瓦で最も若い鬼師、松下幸生であった。英輔は松下幸生を山本鬼瓦としてコラボを担当する鬼師として抜擢したのである。

松下幸生

松下幸生に初めて会ったのは令和3年7月30日である。高浜市文化財委員会があり、この日は議題に上がっていた文化財指定候補作品を実見、審査するために、市内にある壽覚寺へ市の公用車で向かった。そして、壽覚寺で代々所蔵されて来た「蓮如上人六字名号(南無阿弥陀仏)」の掛け軸を実見した。この後、委員会そのものは名鉄三河高浜駅西口の正面にあるいきいき広場の一室で行われた。博物館や美術館で文化財を見ることはあるが、認定される前の私蔵の形で生活の中にある文化財に立ち会えるのがこの委員会の特徴である。このいきいき広場から車で5分もかからないところの春日町に仕事場を持つのが、鬼敦こと山下敦である。場所が近いこともあり、文化財委員会が終わる夕方4時頃ほぼ毎回訪れる先が山下敦の仕事場である。

外見からではそこに鬼瓦を作る仕事場があるとは思えない、一見すると、一般民家の駐車場のようなところである。この日、敦といろいろ話した中で出て来たのが松下幸生であり、しかも、今、隣にある工場こうばの一角で仕事をしているという。それを聞いて「エーっ」と驚いたのであった。それから小一時間近況を聞き、仕事場を見て回り、帰り際に松下幸生の仕事場へ案内してもらった。敦から紹介を受けたのが松下幸生だった。その時は長話はせず、次、また近いうちに訪れる約束をして帰宅した。幸生との初の面会の場に立ち会った敦は、幸生の仕事場を出た直後に、「どうでした、彼は」と聞いて来た。そして、敦は自分自身が私と初めて会った22年前(1999年8月31日)のことを思い出し、お互いに帰る間に昔話に話が弾んだのである。

次に松下幸生に会ったのは令和3年8月6日のことである。「『鬼滅の刃』と『鬼師』のコラボのフィールドワークをするのは今だ」と、その日恵那にある自宅に帰ってすぐに思

い、翌日には取材のスケジュールを泥縄式に組んだのだった。折しも丁度8月で、盆を挟んで、それぞれ1週間ずつ取り、コラボに関わった人に出来るだけ多く会うことを決めた。こうして高浜での泊まり込みフィールドワークが始まった。

幸生とは盆前に会うことになった。インタビュー自体は松下幸生の全体像を捉えることを主眼に置いた。ここでは「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボに関連するところのみを取り上げる。松下幸生の全体像は後日纏めてみるつもりでいる。『新・鬼師の世界』に合致する現代の鬼師たる条件を兼ね備えていた。仕事場で幸生が鬼瓦を作っているところをいきなり割り込む形で、会話は始まった。最初は立ち話である。幸生の足元には幸生が作った鬼瓦、作りかけの生の鬼瓦がいくつも床に置いてあった。(図4)



図4 松下幸生とのインタビュー（高原隆：左、松下幸生：右）
令和3年8月6日 山下鬼瓦工場にて

「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボ：山本鬼瓦の場合

松下幸生が山本鬼瓦のコラボ担当鬼師に選ばれた。他の鬼板屋では起きないことだが、山本鬼瓦は複数の鬼師を社内に抱えているので、全員がコラボに当たらずに、通常業務はしながら、松下幸生一人をコラボ専任としたのである。英輔はこの件について次のように語っている。

うちら、一番職人の中でも若い20代の鬼師さんに任せようと思って。やっぱり、アニメの方もその子は好きでしたし。やっぱり、若い20代の子にちょっと凶面から、あの一、制作から、全て。こっちはやりたい事言わずに、「君が、お前が、作りたいものを作ればいいよ」って事で、あの一、やらせました。

これは社長である英輔のコラボのための鬼師選定の弁であるが、幸生は当事者として、選定について職人の立場から話してくれた。

当時、僕がいて5人。一応、あの、アンメンさん（安面あや子）という昔からおるおばあちゃんも居るんですけど。ま、主力というか、メインでパーツとやっている男の面子は、当時5名。僕を入れて5人。

鬼師とはいえ、「生き物」と言われる置物系の立体的な像が出来るかどうかで大きく職人が分かれるので、その5人のうち何人が立像が出来るのか尋ねてみた。すると、その5人の職人としての姿が明確に現れて来た。

多分、因さん（因章悟）は出来たんじゃないかなって思いますけど。うーん。そうですね。例えば、日栄さん（日栄富夫）とかは、大きいものやらなきゃーとか。何か、そういうので、担当みたいになっちゃってたんですよ。誰々はこれをやる。そういう、万遍無くやれた後に、これが得意じゃないといけないんで。あまり良くないと思うんですけど。そういう最初から出来るやつだったり、出来る様になったやつをやるという担当制みたいに成っちゃったところがあったんで。

僕が、因さんが、細工物をやるみたいな、担当だったと思うんですよ。で、その中でも「デザインをやって来たね」っていうので、そういう、あの、新しい形を作るというか、どう言うのがいいと思うってなった時に、僕は一応、「こうなん」か、「こういうのが良いんじゃない」って言うのが、その、新しかったんじゃないすかね。「そんな事、言うんだ」とか。

今、すごい生意気な事言ってるんですけど……。まあ、多分、そういう部分で、「あなた、やって」ってなってたんで。鬼滅の場合でも「やって」っていう事だと思います。

また、「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボで、山本鬼瓦が作ったモニュメントは「嘴平伊之助」と「伊黒小芭内」であった。今も、山本鬼瓦の応接室にはこの二枚のモニュメント

が飾ってある。このモニュメントの選定について幸生に聞いてみた。山本鬼瓦では選ぶ権利はあったと幸生は話している。しかし、この二つのキャラクターになった過程はやや複雑であった。

(選ぶ権利は) あったんですけど、なんか、最初の、モニュメントに関しての会議みたいなやつで、一応、ぼくが作るってなったんで、英輔さんが理事長だったんで。プロジェクトの瓦屋さんのリーダーみたいな感じだった。僕も一応行って、で、こう、「みんなで選んで下さい」みたいな。……となるんですけど、みんな「これ、どうする？」みたいな。

遠慮気味。で、別に、僕も甘かったんですけど、「何作っても構わないよ」って思ってたんで。英輔さんに「私は何でもいいです」って言ってたんで。権利はあったんですけど、選んだのはほぼ英輔さんですね。「これで良いんじゃない」みたいな感じ。ちょっと、流れですね。「これ！」みたいな感じじゃない。

幸生はモニュメント選定時に、「別に何でもいいですよ」と実際に思っており、そう英輔に伝えていたのだ。ただ、本当にやりたかったキャラクターはあったのかと幸生に再度問いただすと、別のキャラクターの名前が浮上してきた。

それが結果論なんですけど、後々、一応時期的なものもあって、あれって劇場版と連動したような感じになったんで、劇場版の煉獄さん。「煉獄さんだったら」という。(笑い)

「絶対そうだな」と後から思いました。もっとメインのキャラでも良かった。一応、メインの4人の一人ですけどね、今。「ああ、選らんどぎゃ、良かった」。後から後悔しましたね。「しまったな」と。(大笑い) (図2参照)

この選定時の「何でもいいですよ」から、「鬼滅の刃」の劇場版を観た後のキャラクター選択に対する後悔は幸生のコラボを通して起こった「鬼滅の刃」に対する姿勢の変化を示していると言えよう。事実、幸生はキャラクター選択前の「鬼滅の刃」に対する気持ちについて語っている。

一視聴者みたいな。普通に「面白いな」って思って、アニメを一応見てて。ただ、はまったりはしていなかった。

結構。マンガだったり、アニメは見るっちゃ、見るんですよ。小さい頃そうだった流れで。で、好きな漫画とか、アニメはもちろんあるんですけど。その中の一つではなかったですね。すごい数あるじゃないですか。マンガって、アニメ。毎クール、毎クール、新しいのが。それをチェックできる奴はチェックするみたい位には見てるんですけど、それの中の一つって感じだ。正直、「なんでそんなに流行ってるの」って思っていました。

ただ、幸生本人は「特に変化はなかった」と語っている。

そういう自分が作るってなった時に、どういうのが受けるのかなとか、考えたんで、そこでもう一回見直して、何か、自分をはませようとか、そういうのは全くなくて、そのまま、フラットのまま。「どれやったら受けるのかな」、「どうやったら売れるのかな」って風にはなったんですけど。特に作品自体に対しての感想は変わったりしてない。

つまり、幸生は「鬼滅の刃」オタクではなかった。あくまで山本鬼瓦の職人として、「鬼滅の刃」のコラボに対処していったのである。そして幸生はモニュメントからグッズ製造へ話を移して行った。「鬼滅の刃」のコラボではモニュメントは各参加した鬼師がキャラクターの中から選定後は、会議で誰が何を担当するかが承認され、それ以降はほかのキャラクターのモニュメントは作ることは出来なかった。しかし、グッズつまり「鬼滅の刃」のキャラクター関連グッズ（商品）は物販品として自由に各鬼板屋で作れたのである。そのグッズについても幸生は話してくれた。（図5）

キャラクターが十何人、モニュメントの数ぐらいあると思うんですけど、全部を網羅するという事は絶対できない、グッズの中で。山本から出すグッズとして出来ないって。

じゃ、メインを作るしかないだろうと。となつて、一応、メインの4人のグッズをメインで作る方向になって来たんで。キャラの選び方としては早くというとあれですけど、そこは押さえなければいけないと思ったんで、網羅できないってなったんで、じゃ、メインの4人っていう。

山本鬼瓦はメインの4人、つまり、竈門炭治郎、竈門禰豆子、嘴平伊之助、我妻善逸あがつまぜんいつをグッズのキャラクターにしたのである。これにより、モニュメントで選んだ伊黒小芭内が



図5 『鬼滅の刃』グッズ製作風景：鬼師 — 松下幸生

グッズから外されている。実際に何を作ったかについては英輔が語っている。

うちは13cm位の、あの一、炭治郎、禰豆子、善逸、伊之助の、あの、文鎮にもなるし、ちょっとインテリアとして飾れるようなものを制作しました。(図6、7、8、9)

あの、どっかで、やっぱり、小物、小物って言い方は悪いな、どっかで、小さいものだけだと、迫力もないですし、ほで、えー、「これが鬼師の技術だ」ってちゅうのを発揮できる作品も出したかったので、そこはほかの業者とは違う、ちょっと大きいものを作ろうという事で、傘立てを作りました。

やはり、あの一、当たり前だけど、鬼滅の刃を通して、鬼瓦の技術だったり、鬼師の凄さを世間の人たちに知ってもらうのが一番ですので、そういう意味で、傘立てを作らせて頂きました。

ほで、傘立てなんかはすごい人気で、店頭に並べて、もう15分で、すぐに完売しちゃって。ほいで、組合を通してネットの販売もしたんですけども、やっぱり、そこそいい値段はするんですけども、うちのを沢山お買上げ頂いて、もう、ただ、た



図6 ペーパーウェイト(竈門炭治郎)
松下幸生作 かわら美術館



図7 ペーパーウェイト(竈門禰豆子)
松下幸生作 かわら美術館



図8 ペーパーウェイト(嘴平伊之助)
松下幸生作 かわら美術館



図9 ペーパーウェイト(我妻善逸)
松下幸生作 かわら美術館

だ、あれ、すごいな、有難いことだなあと思いましたね。

本当に普通の傘立てだったら、三か月に一本ぐらい売れるのがいいとこなのに、コラボの（笑い）御蔭で、何倍もする傘立てが、買って頂いたというのが、大きかったですし……。

この傘立てについては幸生も言及している。

作りたかったのは、あれは英輔さんなんです。多分、市役所の方との会話とか、いろいろあって、やっぱり進捗を、まとめ役ですし、市役所の方とかからも、「何か、みんな似てる」みたいな。「同じような奴ばかりだねー」みたいな。多分、そう言うので、「大きいのがあったら良いね」とか、多分、そういった会話があったと思うんですよ。「似通ったものばかりでもなあ」と思うじゃないですか、誰でも。

そん中で、僕に英輔さんが投げて来たのが、傘立てだったんですよ。結構スタンダードな鬼瓦としても製品としてあるもので、その鬼滅のを作って売ってという事なんだと思います。

で、それを英輔さんのアイデアもありつつ、僕が「これ、どうですか」つつって作ったのが傘立てですね。最初は英輔さんですね、「傘立て作りたい」っていうのは。デザインは僕がやったっていう、そういう感じですかね。（図10）

英輔と幸生の話から、山本鬼瓦が制作した「鬼滅の刃」グッズ、「傘立て」は山本鬼瓦の目玉商品になったことがわかるのである。幸生はモニュメントやグッズ制作については技術的な難しさには言及していない。しかし、実際のコラボ期間に入ってからの商品の売れ行きは予想を遥かに超える想定外の状態になり、その事に対する対応について語っている。

「まあ、まあ、良いよ」みたいな風には聞いていたんですけど、僕が思ってたのは、どんだけ売れたら、その、「跳ねた」というか、良いのか、わかんないし。僕の生産の見通しが甘くて、製造のスピードが全く追い付かなかったんですね。沢山作れなくて。はい。

幸生は「鬼滅の刃」とのコラボの反響具合が全く予想がつかず、制作工程で、ヘラによ



図10 傘立て 松下幸生作 山本鬼瓦応接室にて

る手作業の部分で省略をほとんどしなかったのである。

結構（ヘラを）入れてったんですよ。もちろん型を作ったんですけど。その、一個ずつだけとか、最初。見通しが甘過ぎて。そこが苦労したんで、あれだったんですけど。わかんなかった。どんだけ出たら良かったつうんがわかんなかったんで。

ま、テレビとかも一応取材が来たりしたんで、そんぐらいには注目され、ある程度というのは思いました。テレビとか、取材とかはその時は多かったですね。そうですね、（テレビ取材に）出たかなと思います。あんまり覚えてないですけど。（笑い）

どれほどグッズが出ていたのかと直截に聞いてみた。

そうですね、多分、千いってないぐらいじゃないですかね。結局、みんなに手伝ってもらったりして……。

英輔もどれほど忙しくなったかについて言及している。幸生の話と重ね合わせると、山本鬼瓦がどういった状態になったかが想像できる。

あの一、大変だったのは大変でした。本当に朝8時から夜8時ぐらいまで、ずーっと出て来て、ひたすら作っていましたし……。

コラボ期間というのは決まって、短期間っていうのがありましたし、……何とか。うれしい悲鳴なんですけども、店頭に並べればすぐに完売しちゃうというのはありましたので、作る方は必死でした。うちも最初、一人で作ったのを、最終的には一人で作ってたのを、三人増やして四人体制で。

それでも追い付かんぐらいでしたけど……。それは凄いやり難かったですし、やっぱり、うちの職場もその時は仕事以外の、鬼滅の話題で盛り上がりだとか、ま、あの、職場は、なんかね、明るかった。(笑い) 日栄さんもよう喋るけど、その中で話題があってて、あの一、面白かったです。うーん。

幸生だけの一人体制で始まった山本鬼瓦における鬼滅の刃コラボは何と商品の売れ行きに生産が追い付かなくなり、三人鬼師をさらに投入して、四人体制に山本鬼瓦はなったのである。それでも追い付かないほどであったと英輔は言っている。ここで問題になるのが、幸生がかなり手を入れていたへらによる仕上げである。おそらく、幸生が作った商品のキャラクターのデザインは(株)フェザン・レーヴから指定のものが来るので、独自のデザインでは勝負は出来ない。あとは鬼師によるへら裁きから生まれる「彫りの美」という事になる。幸生一人だけだと美の統一は均等に取れるが、ひとたび他の三人の鬼師が入って同じ型を使って、へらを入れる時、どのように統一を図ったのか幸生に尋ねてみた。

ああ、もう、認識だけです。意識するだけ。手伝ってもら。完璧に出来たか、ちょっと分かんないですけど、あの、一応、お願いする時に「こうして下さい」とか、「これはこういう感じで」みたいな。そういう会話はあったんで。見る人が見りゃー、わかるんでしょうけど。もう、あんまり逸脱しないように、ある程度のラインでやろうという風ではやってっただ。なんで、ちょっと変わっちゃってるかもしれない。(笑い)

パーっとは見たんですけど、基本的に僕が作った、その、原型の型ですよ。なんで、大きい形というのは変わらないんで、その辺はそういう判断でした。「ま、それ位で良い」と。そういう風でしたね。

この様に山本鬼瓦のグッズは売り上げを伸ばし、工場内では鬼師たちがフル稼働していたのである。その中心にいた鬼師が、松下幸生であった。しかし、幸生は「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボレーションが2021年1月29日に終了するとともに、山本鬼瓦を去ったのである。

まとめ

「周縁の再中心化」は山本鬼瓦ではっきりと起きていた。まず、山本鬼瓦の社長が「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボの期間中、ほとんど自社のことを構うことが出来ない状態になったことが挙げられる。山本英輔は山本鬼瓦の社長業をさて置かざるを得なくなった。英輔は三州瓦工業協同組合理事長をしており、コラボ期間中は基本的に山本鬼瓦社長ではなく、三州瓦工業組合理事長として動いていたのであった。つまり、三州の「鬼師」代表として行動したのである。山本鬼瓦を顧みる余裕がなかったと言える。そして、もっぱら山本鬼瓦を出て、ほとんど他の業務に追われる毎日を送っていたのであった。それが主には、高浜市役所との対応、契約会社（株）フェザン・レーヴとの対応、そして様々な、且つ、ほぼ毎日のようにあるメディア取材に追われていたのである。（高原2022）

この事は陰の存在である「鬼師」がその住処である鬼板屋を離れて、陽の社会へ出て行ったことを意味している。また、メディア取材の多さとその対応に追われること自体が、現実社会における「鬼師」の陰から陽への移行を示している。一般の人でさえも、メディアからの取材を受けるという事は一生に一度あるかどうか分からないことを考えると、わずか三か月のコラボ期間中に集中して様々なメディアからの取材を受けた「鬼師」代表の山本英輔は文字通り周縁の再中心化を体現していると言えよう。

さらに、メディア取材は「周縁の再中心化」を拡大・加速化させる。メディア取材はリアル（現実）世界からヴァーチャル（仮想）世界への変換装置でもある。メディア取材によって「鬼師」は記号化・デジタル化・映像化されて、ヴァーチャルな世界へと組み替えられる。様々なメディアを通して、「鬼師」という情報に姿を変え、拡散されて行く。極陰的な「鬼師」が反転して、極陽的な「鬼師」へと極移動が起き、それは日本という枠組みさえも超えて行く。それは単なる「周縁の再中心化」ではない。超「周縁の再中心化」が「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボレーションで起きたのである。それをこのコラボに関係した人々は、「爆発的な反響」と呼んでいる。契約会社（株）フェザン・レーヴさえも、

この同じコラボ期間中で、「鬼師」とのコラボは全体で二番目に値する話題性を提供したと評価している。一番目は DyDo コーヒーで、日本経済新聞によると、「ダイドーグループホールディングスは26日、2021年1月期の連結純利益が前期に比べて41%増の25億円になりそうだと発表した。従来予想は同72%減の5億円だったが、人気アニメ「鬼滅の刃」のキャラクターをあしらった缶コーヒーが好調で、一転して大幅増益となる。」(2020/11/26日本経済新聞)

その超絶的な「鬼師」の話題性を支えたのが、三州の鬼師たちであった。ここ山本鬼瓦では、社長という頭^{かしら}が抜けたところを、山本章代が代行した。こうした異例の事態そのものが周縁の再中心化現象が起きている証拠と言えよう。鬼師たちも社長代行と一丸となって、何と朝8時から夜8時までぶっ続けで、コラボグッズを制作していたのである。英輔はその様を「うれしい悲鳴」と表現している。そのリアルの世界で中心にいた鬼師が松下幸生だった。

「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボレーションは陽でヴァーチャルな世界の雄「鬼滅の刃」と陰でリアルな世界の影-雄「鬼師」が交通し合って、リアルな「鬼師」がヴァーチャルな世界へ行き、ヴァーチャルな「鬼滅の刃」がリアルな世界へと降り立った独自のユニークな世界が創造された処に、メディアを媒介にして世界が反響を起こしたと言える。周縁の再中心化が現実起きたのである。それも想定外の反響を伴って。(図11)



図11 「鬼滅の刃 於 鬼師のまち」カード 2020高浜市50th
かわら美術館にて

参考文献

- 吾峠呼世晴 2016年 『鬼滅の刃』 1 (株) 集英社
2016年 『鬼滅の刃』 2 (株) 集英社
2016年 『鬼滅の刃』 3 (株) 集英社
2016年 『鬼滅の刃』 4 (株) 集英社
2017年 『鬼滅の刃』 5 (株) 集英社
2017年 『鬼滅の刃』 6 (株) 集英社
2017年 『鬼滅の刃』 7 (株) 集英社
2018年 『鬼滅の刃』 8 (株) 集英社
- 小林章男 2016年 「城と鬼瓦」『続・鬼瓦・瓦屋根再考』 鬼文化伝承展実行委員会
- 高原 隆 2022年 「新・鬼師の世界—周縁の再中心化：「鬼滅の刃」と「鬼師」のコラボレーション— はじまり」 愛知大学総合郷土研究所紀要 第67輯
2017年 『鬼師の世界』 あるむ
- 日本経済新聞 2020年 「DyDo の今期純利益25億円に「鬼滅の刃」缶ヒットで上方修正」 日本経済新聞 2020/11/26